

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1. 市民会館・公民館施設概要

会館は多様な文化的活動に対応しつつ、又教育機関としての機能も果していく施設として、昭和52年6月に開館した。

敷地面積 4,937.07㎡ 延床面積 6,771.253㎡

鉄筋コンクリート地下1階地上3階建

また、武蔵野台地区、熊川地区に社会教育活動の拠点として、地域のさまざまな文化創造の場として公民館分館（松林分館、白梅分館）がある。

- (1) 松林分館（武蔵野台地区）が昭和54年5月に開館した。

敷地面積 1,104.98㎡ 延床面積 564.30㎡

鉄筋コンクリート 地上2階建

- (2) 白梅分館（熊川地区）が昭和55年5月に開館した。

敷地面積 2,158.03㎡ 延床面積 570.59㎡

鉄筋コンクリート 地上2階建

これらの施設、設備、職員を通じて

- (1) 市民の出会いの場（広場）
- (2) 集団活動のよりどころ
- (3) 人間（市民）としての向上の場（市民の大学）
- (4) 芸術、文化、娯楽の鑑賞と創造の場（劇場、音楽堂）

としての役割を果たしている。

2. 市民会館・公民館の利用状況

月 別 区 分 施設名			4			5			6			7			8			9			1 0			1 1			1 2			1			2			3			合 計		
			有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数			
市 民 会 館	ホ ー ル	大 ホ ー ル	21		21	14		14	36		36	21		21	17		17	25		25	13		13	54		54	26		26	23		23	30		30	32		32	312		312
		小 ホ ー ル	18		18	17		17	25		25	44		44	12		12	30		30	26		26	28		28	20		20	13		13	16		16	37		37	286		286
		小 計	39		39	31		31	61		61	65		65	29		29	55		55	39		39	82		82	46		46	36		36	46		46	69		69	598		598
	集 会 室 等	リハーサル室	8	9	17	8	7	15	10	8	18	6	7	13	9	10	19	2	6	8	4	20	24	6	40	46	7	12	19	1	13	14	11	13	24	10	14	24	82	159	241
		第1集会室	11	15	26	2	22	24	7	28	35	7	28	35	6	19	25	7	24	31	13	17	30	4	34	38	2	24	26	6	14	20	13	22	35	4	35	39	82	282	364
		第2集会室	11	26	37	1	35	36	2	45	47	5	38	43	4	36	40	12	27	39	7	33	40	1	49	50	2	30	32	0	35	35	11	37	48	3	44	47	59	435	494
		第3集会室	6	37	43	11	43	54	7	52	59	3	50	53	2	29	31	5	47	52	11	41	52	3	31	34	2	29	31	2	43	45	3	43	46	6	39	45	61	484	545
		第4集会室	5	36	41	11	24	35	8	34	42	8	35	43	6	24	30	8	26	34	13	26	39	7	38	45	10	23	33	7	19	26	8	26	34	6	33	39	97	344	441
		第5集会室	4	29	33	7	30	37	5	41	46	6	37	43	2	31	33	10	29	39	16	27	43	7	44	51	9	23	32	3	22	25	3	29	32	4	25	29	76	367	443
		第6集会室	4	31	35	7	25	32	8	34	42	9	35	44	9	30	39	12	37	49	11	36	47	5	45	50	16	26	42	4	39	43	6	31	37	10	27	37	101	396	497
		第7集会室	1	30	31	5	24	29	5	38	43	6	39	45	7	23	30	11	36	47	9	35	44	3	42	45	11	24	35	5	35	40	6	26	32	6	25	31	75	377	452
		第8集会室	5	5	10	13	3	16	8	14	22	9	7	16	6	6	12	12	4	16	8	9	17	3	21	24	5	4	9	2	11	13	3	7	10	9	12	21	83	103	186
		展 示 室	0	5	5	2	0	2	0	0	0	0	4	4	0	12	12	0	0	0	0	12	12	2	18	20	0	0	0	0	6	6	5	0	5	9	0	9	18	57	75
		小 計	55	223	278	67	213	280	60	294	354	59	280	339	51	220	271	79	236	315	92	256	348	41	362	403	64	195	259	30	237	267	69	234	303	67	254	321	734	3,004	3,738
		計	94	223	317	98	213	311	121	294	415	124	280	404	80	220	300	134	236	370	131	256	387	123	362	485	110	195	305	66	237	303	115	234	349	136	254	390	1,332	3,004	4,336
公 民 館	調 理 室	5	21	26	5	11	16	6	16	22	1	21	22	0	5	5	7	9	16	1	27	28	7	32	39	0	15	15	2	14	16	2	12	14	1	34	35	37	217	254	
	美 術 室	1	21	22	1	25	26	1	18	19	1	15	16	0	14	14	3	23	26	1	33	34	1	32	33	0	18	18	0	21	21	1	9	10	1	31	32	11	260	271	
	音 楽 室	0	41	41	1	36	37	0	36	36	1	28	29	0	47	47	2	29	31	0	49	49	2	39	41	0	28	28	0	39	39	0	31	31	0	34	34	6	437	443	
	視 聴 覚 室	1	34	35	2	18	20	0	31	31	1	24	25	0	48	48	0	25	25	1	28	29	2	43	45	0	30	30	0	23	23	3	27	30	1	26	27	11	357	368	
	児 童 室	2	13	15	3	12	15	0	18	18	0	20	20	0	3	3	1	15	16	2	13	15	0	15	15	0	20	20	0	21	21	3	20	23	2	15	17	13	185	198	
	計	9	130	139	12	102	114	7	119	126	4	108	112	0	117	117	13	101	114	5	150	155	12	161	173	0	111	111	2	118	120	9	99	108	5	140	145	78	1,456	1,534	
合 計			103	353	456	110	315	425	128	413	541	128	388	516	80	337	417	147	337	484	136	406	542	135	523	658	110	306	416	68	355	423	124	333	457	141	394	535	1,410	4,460	5,870

3. 公民館運営審議会

公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する機関である。この制度は社会教育法上必置制となっており、本市の場合、昭和56年10月から社会教育委員との兼任から独立し、任期2年、定数10名で構成されている。

本年度の審議日程及び内容は次のとおりである。

昭和60年6月14日（金） 午後7時 公 民 館

① 昭和60年度上半期主催事業実施状況について

昭和60年8月14日（水） 午後7時30分 公 民 館

① 公民館調査について

昭和60年9月20日（金） 午後7時30分 公 民 館

① 公民館調査について

昭和60年11月29日（金） 午後7時30分 公 民 館

① 昭和61年度公民館予算について

② 相模原市公民館視察について

昭和60年12月7日（土） 午前8時30分～午後5時

① 相模原市公民館視察

（大野中公民館、光ガ丘公民館）

昭和61年2月28日（金） 午後7時30分 公 民 館

① 昭和61年度社会教育計画について

4. 奨励・援助

(1) 人的援助

各団体、個人の相談に応じ、職員が必要な助言、指導、援助を行った。

分館を除き、公民館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これら社会教育活動をする市民（団体）の相談にのり、必要な援助をするため、職員が1名残る体制をとっている。（午後5時から10時まで）

(2) 教材、教具等の貸出し

社会教育備品貸出し状況

内訳 \ 月	60年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	61年 1月	2	3	計
利 用 団 体	7	4	8	7	12	7	10	7	16	7	6	8	99
16ミリ映写機	5	4	4	6	9	5	7	6	1	5	4	3	59
スクリーン	4	2	5	5	4	1	5	3		3	1	2	35
暗 幕	2			3			2	5	15				27
O. H. P.			1	1			1		1		1		5
スライド映写機								2		1	1		4
ビデオセット			1	1		2	1		3	1	1		10
スポットライト					1			2	3				6
8ミリカメラ					1								1
													246

(3) 事務援助

立川社会教育会館フィルム配送サービス取扱い

月	60年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	61年 1月	2	3	計
利 用 団 体	1	3	2	6	3	4	4	11	12	12	8	6	72
本 数	2	5	6	10	9	5	10	22	17	22	16	15	139

(4) 会場借上

大ホール 1回（市民音楽祭）

小ホール 1回（福生市民コーラス）

5. 公民館主催事業

(1) 幼 児

幼児室事業

幼児の成長、発達をはかり、子どもをあげることを通して、母親が学習していく場として実施した。

期 間 昭和60年5月13日(月)～10月末日(前期) 1コース全15回×5コース
午前10時～正午

昭和60年11月7日(木)～昭和61年3月末日(後期)

1コース全15回×3コース 午前10時～正午

会 場 公民館、松林分館、白梅分館

参加者 (16人×2C+15人×2C+11人×1C)×15回=1,095人

(12人×1C+11人×1C+15人×1C)×15回=570人

内 容 幼児が集団の中で、能動的にかかわれるようにはたらきかける。

幼児の自主性を育てる。

	実施コース	幼 児 数					延参加者数
		1才	2才	3才	4才	計	
前 期	松林月曜コース	7人	4人	5人	0人	16人	240人
	白梅月曜コース	6人	6人	3人	1人	16人	240人
	白梅水曜コース	7人	4人	3人	1人	15人	225人
	本館木曜コース	5人	7人	3人	0人	15人	225人
	本館金曜コース	3人	3人	5人	0人	11人	165人
後 期	松林月曜コース	5人	4人	3人	0人	12人	180人
	本館木曜コース	6人	4人	1人	0人	11人	165人
	本館金曜コース	8人	2人	4人	1人	15人	225人

総 括 今年度はじめて前期、後期にわけて行った。前期よりも後期、という具合に、良くなり、母親の学習としての幼児室になっていったようである。

(2) 少 年

合同キャンプ

三館合同でキャンプを実施することにより、幅広い子どもの交流を図り、豊かな人間関係をつくるとともに、野外生活のなかで、自然と関わり、自主性、協調性、創造性を養なう場として実施した。

期 間 昭和60年8月21日(水)～23日(金) 2泊3日

場 所 小菅村平山キャンプ場

参加者 本 館 子どもアウトドア教室 33人

松 林 子ども教室 19人

サバイバル教室 9人

白 梅 たんけん教室 17人

計 78人×3日=234人

月 日	8. 2 1	8. 2 2	8. 2 3
プ ロ グ ラ ム	開 村 式 昼 食 自由プログラム 夕 食 きもだめし ㊥ 反 省 会	朝のつどい 朝 食 オリエンテーリング ㊥ 昼 食 オリエンテーリング ㊥ 夕 食 キャンプファイヤー ㊥ 反 省 会	朝のつどい 朝 食 清 掃 昼 食 閉 開 式 ※ ㊥ = 合同プログラム
講 師	各 教 室 の 実 技 指 導 者		

総 括

初めての試みであった合同キャンプであったが、他の教室の様子を目の前にして、参加した子どもたちは、色々な事を学んだようだ。教室の年齢層、キャリア等の違いから、プログラムをこなしていく能力に差がある、合同プログラムでの交流が十分でない等の課題を来年度へ向けて、考慮していきたい。

子どもアウトドア教室 パートⅠ

野外生活に必要な基礎的な事を学びながら、子ども同士の仲間づくりを図る。

期 間 昭和60年6月26日（水）～8月28日（水） 午後2時～4時 全9回

会 場 公民館集会室及び野外

参加者 35人×9回＝315人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
6. 26	オリエンテーション	教室の説明、自己紹介、ゲーム	久保山佳奈氏
7. 6	野外で遊ぼう	野外ゲームのいろいろ	〃
7. 17	火をつくろう	発火法のいろいろ	担 当 職 員
7. 27	ロープワークを覚えよう	ロープワークのいろいろ	向井 宗晴氏
7. 31	うどんをつくろう	手打ちうどんづくり	村野 栄子氏
8. 7	カレーライスをつくろう	野外でカレーライスをつくる	担 当 職 員
8. 14	合同キャンプ準備	合同キャンプの計画、打ち合わせ	〃
8. 21	} 合同キャンプ	合同キャンプに参加	〃
8. 22			
8. 23			
8. 28	ま と め	表彰式、まとめ	〃

総 括

仲間づくりは図れたが、子ども集団の中での主体的な行動にまでは至らなかった。回数をもう少し重ねていく必要を感じた。

子どもアウトドア教室 パートⅡ 一大会たんけんー

地図、交通図をみて、自主的に動くことにより、仲間づくりを図ると共に自主性、社会性を育む。

期 間 昭和61年2月1日（月）～3月8日（土） 原則として午後2時～4時 全4回

会 場 公民館集会室及び野外

参加者 39人×4回＝156人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 1	オリエンテーション	教室の説明、自己紹介、ゲーム	担 当 職 員
2. 15	福生たんけん	市内でのタウン・オリエンテーリング	〃
3. 2	大都会たんけん	渋谷の「子どもの城」までたんけん	〃
3. 8	ま と め	表彰式、まとめ	〃

総 括

パートⅡでは、自然の中ではなく、都会で子どもの自主性を育てていくのが、ねらいであったが、大人がそのメディアの中でどう関わっていけばよいのか、一つの課題を残した。

子ども教室

かつて、子どもたちが、地域で豊かな異年齢による遊び集団をつくっていた。そのことが大事な地域の教育力ともなっていたのである。しかし、1970年代から80年代にわたって、地域の異年齢のあそび集団が急速におとろえて来ている。単におとろえたというだけにとどまらず、子どもの持っていた、文化力が同時におとろえて来ていることに注目していく必要がある。そうした中で、

(1) 異年齢のあそび集団の形成、(2) 子どものあそびの中にあった民主性を回復し、(3) 手の技、手労働の回復させながら、子どもに文化をつなげていく。(4) 仲間に働きかけ、一緒に何かをやりとげる力を育てることを目標に、通年事業として行なった。

期 間 昭和60年4月27日(土)～昭和61年3月29日(土) 午後2時～4時 全4回

会 場 松林分館 多摩川 河原 公園

参加者 36名×48回=1,728人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 27	開 講 式		担 当 職 員 担当職員 斉藤 明朗氏 (文京大)
5. 18	友だちをつくろう	室内ゲーム	
25	友だちをつくろう	〃	〃
6. 1	友だちをつくろう	野外でゲーム	〃
8	多摩川たんけん	多摩川で川あそび	〃
15	作ってあそぶ	パ タ パ タ	〃
	〃	〃	〃

月 日	テ ー マ	内 容	講 師 担当職員
6. 2 9	作ってあそぶ	パ タ パ タ	齊藤 明朗氏 (文京大)
7. 6	"	ワリバン鉄砲づくり	"
1 3	"	"	"
2 0	野 外 活 動	多摩川原のたんけん	"
2 7	"	野外活動の基礎知識、技術	"
8. 3	"	野 外 活 動	"
9	"	松林一泊ミニキャンプ実習	"
1 0	"	"	"
1 7	合同キャンプ打合せ	合同キャンプ打ち合せ	"
21~22	合同キャンプ	山梨県平山キャンプ場	"
2 2	"	"	"
2 3	"	"	"
9. 7	自動車を作ろう	班で自動車のイメージ画を作る	"
1 4	"	自動車の設計	"
2 1	"	自動車づくり	"
2 8	"	"	"
1 0. 5	"	"	"
1 2	"	"	"
1 9	"	自動車完成	"
2 6	"	だれでもなんでも展に自動車出展	"
1 1. 2	たんけんに出よう	多 摩 川 原	齊藤 明朗氏 佐久間正冬氏 担 当 職 員
9		"	"
1 6		草 花 丘 陵	齊藤 明朗氏 佐久間正冬氏 担 当 職 員
3 0		"	"
1 2. 7	たこを作ろう	竹からひごづくり	担 当 職 員 齊藤 明朗氏
1 5	"	"	"
2 2	"	"	"
1. 1 1	"	"	"
1 8	"	た こ 作 成	"

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 25	たこを作ろう	た こ 作 成	担当職員 斉藤 明朗氏
2. 8	野外ゲーム	Sけん、どろけい、他	" 担当職員 斉藤 明朗氏 佐久田正冬氏 斉藤 明朗氏
15	"	多摩川原であそぶ	
22	"	Sけん、どろけい、他	
3. 1	食物を作る	ド ー ナ ツ	斉藤 明朗氏 貫井恵美子氏
8	"	ゼリー、むしパン	"
15	"	シュークリーム	"
30	"	コ ロ ッ ケ	"

夏休みおもしろ科学クラブ

科学のおもしろさを、科学あそびと、仮説実験を通して体験しながら学ぶ。今日、学校教育をふくめて、子どもたちに問いを發し、試行錯誤しながら考えるという時間的余裕を与えられていない。科学は、試行錯誤をしながら、真実を見つけ、方法を発見する。仮説をたて、自分をたしかめながら、考えて行く、その中に科学的思考と、たのしさがある。その科学することのたのしさを体験する場とした。

期 間 昭和60年7月24日（水）～8月16日 全6回

会 場 松 林 分 館

参加者 13人×6回＝78人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 24	開 講 式	教室の説明	斉藤 明朗氏 (文京大学生)
25	モーターのしくみと原理	電気と磁石の説明と実験	
8. 1	磁石で電気が起きるか	磁石の性質を学ぶ	神蔵 誠氏 (専門学校生)
7	言葉がなぜ電気に変るのか	マイクを通して電気のしくみを学ぶ	
15	電灯はなぜつくのか	"	
16	電子オルゴールを作る	電子オルゴールをつくる	
17	"	"	

総 括

小学4年から中学2年まで幅広い参加であったが、昨年经验した子どもが多く、手づくりの実験道具が、予想以上の実験結果をもたらした、のびのびとした教室となった。

サバイバル教室

生きることへの努力をさほど必要としない現代において、子ども自身が仲間と力をあわせ、生き抜く力を身につけることを目標に実施した。また、そのことを通して、ものごとをやりとげる苦しさや楽しさを経験し、あわせて、地域での異年齢の集団の形成の機会として実施した。

期 間 昭和60年7月19日（金）～8月23日（金） 午後2時～4時 全12回

会 場 松林分館、多摩河原、小菅、他

参加者 18人×12回＝216人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 19	オリエンテーション	自己紹介、室内ゲーム	大学生指導員
7. 22	火をつくる	火おこしの実践	〃
7. 26	おもしろオリエンテア リング	市内近隣にポイントをもうけ、課題を こなしながら、自分のまちを確認する	〃
7. 29	さかなつり	多摩川でのあんま釣り実践	〃
8. 2	野草の知識	食べられる植物・薬草、毒草。実際に 食べてみる	〃 宮岡 一雄氏
8. 5	キャンプをめざして	訓練キャンプうちあわせ、準備	大学生指導員
8. 6	訓練キャンプ	いままでに学んだ技術を応用してのキ ャンプ	〃
8. 7	〃		
8. 19	合同キャンプをめざして	合同キャンプうちあわせ、準備	〃
8. 21	合同キャンプ	他の教室との交流、自然の中でのびの びと体を動かす。2泊3日の期間の中	〃
8. 22	〃	で生活力を養い、仲間と協力する	〃
8. 23	〃		

総 括

人数が15人と少なかったが、その分、参加者同士の仲間意識が形成されたようだ。しかしながら、男女の仲が悪く、協調性に欠けた部分があった。

プログラムについては、若干、マンネリ化してきたような気がする。

夏休み工作教室「野焼きで土器をつくろう」

お金を出せば何でも買える…物がはんらんしている現代において、土器づくりを通して、古代に思いをはせ、創作することの喜び、むずかしさ、野焼きの妙味を体験し、あわせて、子ども同士の仲間づくりの一助とした。

期 間 昭和60年8月8日(木)～8月28日(水) 午前10時～12時及び4時 全2回

会 場 松林分館及び多摩河原

参加者 18人×2回＝36人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 2	土ねり、成形	オリエンテーション、土ねり、成形	担 当 職 員
8. 28	野 焼 き	野焼きで土器を焼く	〃

総 括

粘土等は、市販の野焼粘土を使ったので、ひび等が少なかった。また乾燥に十分期間をとり、焼きによる破裂を防止した。野焼きは、初めてであったが、作品を入れた位置により1～2点環元しないものがあったが、その他は、よい色にやけた。子どもたちが、野焼きにどう参加するのか、今後の課題である。

青 空 教 室

野菜づくりを通して、土とのふれあい、食物のなりたち、労働のきびしさ等を学ぶ機会として設定した。

期 間 昭和60年4月10日(水)～9月18日(水) 午後2時～4時 全35回

会 場 松林分館及び菜園

参加者 延約150人

内 容 ジャガイモ、トマト、ナス、キュウリ、ダイコン、トウモロコシ、カボチャ、スイカ等の栽培

総 括

100坪の市有地を借りて、初めて実践をしてみたか、人数が少なく、あれ地であったため、草むしり等がたいへんで、子どもたちもイヤ気がしたようだ。

収穫の時の子どもの満足そうな顔が、目に浮かぶが、やりきった、という満足感ではなく、収穫の楽しみ、といったところだろうか。つらい部分とどう向きあい、どう乗り越えるのか。担当者の力量不足である。

松林子どもハイキングクラブ

山歩きを通して、歩くことの楽しさ、自然とのふれあい、集団行動でも、主体性や協調性を養うことを目指した。

日 時 昭和60年10月13日(日) 午前8時～午後4時 全1回

コース 福生駅 — 御岳駅 — 滝本 — 御岳山登山口 — 御岳神社 — 七代の滝 —
大岳山 — 御岳山 — 滝本 — 御岳駅 — 福生駅

参加者 5人

総括

登りは、バス、ケーブルを利用したにもかかわらず、弱音をはいた女の子がいた。当初は御岳から鳩の巣へ下りる予定であったが、変更した。サバイバル参加者等、夏以降コンタクトがあまりないので、実施してみたが、もう少し内容を検討するべきであった。この後、2～3ヶ月に一度ずつ実施する考えであったが、改めざるを得なかった。

ワイワイ子どもひろば 「挑戦、なんでも遊び教室」

子どもの仲間関係の少人数化は、仲間との係わり・遊びの種類・中味を薄いものになっている。各種の遊びに挑戦し、ものごとへの興味・関心や、仲間と一緒に行動する楽しさを身につけられる機会とした。

期 間 昭和60年7月14日(日)～10月6日(日) 午前10時～正午 全11回

会 場 白梅会館及び野外

参加者 31人×11回＝341人

月 日	内 容	講 師
7. 14	自己紹介・すすめ方・1週間の生活・ゲーム	田村 光男氏(瑞穂中教諭)
7. 21	竹うまづくり	児島 宗一氏
8. 4	水デッポー、しのデッポーづくり	田村 光男氏
8. 14	手うちうどんづくり	村野 栄子氏(同上)

月 日	内 容	講 師
8. 1 8	子どもゲートボール I	河久保金蔵氏 同 上
8. 2 5	” II	
9. 1	” III	
9. 8	はん盒すいさん・ゲーム・竹馬遊び	子どもと職員で打合せ
9. 1 5	はん盒すいさん（カレーづくり）	田村 光男氏ほか
9. 2 2	ゲームとフォークダンス I	中森 章一氏
1 0. 6	” II	（フォークダンス愛好会）

総 括

2 小学区の子どもの地域のつながりの契機となる。班活動とその組み替えて、遊びの種目や仲間づくりに広がりとなる。尚、子どもゲートボールは好評で、地域3 世代交流にもむけ、地元の年輩の方の指導で、以後自主活動となる。

子ども合唱教室

現在、子どものための文化活動の機会が少ない中で、音楽を通じて活々とした仲間づくりと自ら自己表現、ハーモニーづくりにむけて実施した。

期 間 昭和6 0 年7 月1 3 日（土）～1 0 月7 日（月） 午後2 時3 0 分～4 時3 0 分

全1 1 回

会 場 白梅会館及び野外

参加者 1 5 人×1 1 回＝1 6 5 人

月	日	内	容	講	師
7.	1 3	自己紹介・1週間の生活・リトミック・教室紹介		小波津 隆氏（国立音大卒）	
7.	2 0	発声練習、リトミック、曲の練習、楽典		”	
8.	4	(曲 目)			
8.	2 4	・歌えバンバン			
8.	3.1	・まっしろいころ			
9.	7	・グリーン・グリーン			
9.	1 4	・森の熊さん			
		・歌はともだち			
		・十五夜お月さん			

月 日	内 容	講 師
9. 1 5	親子はん盒すいさん（カレーづくり）	田村 光男氏ほか
9. 2 1	発表練習	小波津 隆氏
9. 2 7		
1 0. 7		

総 括

リズム・メロディー・ハーモニーを通し、子どもの快活な表現への契機となり、教室終了後の市民文化祭参加は、発表にむけ、一緒に取り組む楽しさ、励みとなった。

たんけん教室

市内の多摩川や林の植物の調査・野鳥の観察などを通して、身近な自然のあり方や自然との関係などを知る機会として実施した。

期 間 昭和60年4月27日（土）～昭和61年3月23日（月） 全35回

会 場 白梅会館、市内河原・公園、草花・滝山丘陵

参加者 25人×35回＝875人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 2 7	オリエンテーション	自己紹介・教室の説明等	岡田 紀夫氏他
5. 1 8	地図とコンパス	それぞれの使い方の説明	〃
6. 1	市内オリエンテーリングⅠ	実際の使い方の練習	〃
6. 9	滝山オリエンテーリング	— 雨天中止 —	〃
6. 2 2	市内オリエンテーリングⅡ	市内の文化財を見て歩く	〃
7. 2 0	夏休みプログラム	夏休み中のプログラムの説明	〃
7. 2 6	崖の動植物調査	市内の林・河原などの生態調査	〃
7. 2 9	〃	〃	〃
7. 3 1	〃	〃	〃
8. 2	〃	〃	〃
8. 7	〃	〃	〃
8. 9	〃	〃	〃

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 1 2	昆虫の利用	都天蚕指導所見学	岡田 紀夫氏他
8. 1 4	多摩川の水生生物	水生昆虫の観察	〃
8. 1 6	} たんけんキャンプ	市内の河原で24時間の体験	〃
8. 1 7			
8. 1 9	公園の植物観察	野生植物と人工的植物の比較	〃
8. 2 1	} 合同キャンプ	公民館の他の事業に参加している仲間との合同キャンプ	〃
8. 2 2			
8. 2 3			
8. 2 6	ま と め - I	市内の自然の様子を、調べる範囲で	〃
8. 2 8	〃 - II	まとめる	〃
8. 3 0	〃 - III	〃	〃
9. 1 6	草花たんけん	草花でオリエンテーリング	〃
10. 1 0	じねんじょ探し	滝山でじねんじょを食べる	〃
10. 2 6	奥多摩たんけんⅠ打合せ	秋の御前山へ行くための準備	〃
11. 4	奥多摩たんけんⅠ	— 雨天中止 —	〃
12. 1 5	多摩川の野鳥観察	冬鳥の観察を多摩川で行う	〃
1. 2 5	奥多摩たんけんⅡ打合せ	冬の奥多摩へ行くための準備	〃
2. 9	奥多摩たんけんⅡ	冬の二次林を観察に浅間尾根へ	〃
2. 2 3	冬の滝山あそび	身近な二次林の中で仲間と遊ぶ	〃
3. 1	ファミリーハイキング打合せ	} 子どもたちによる企画、下見、 資料作りを通して、一年間に 身につけたものを表現する	〃
3. 9	〃 下見		〃
3. 1 5	資料作り		〃
3. 2 3	本番		〃

総 括

今年は観察行動が多かったが、もう少しあそびの要素を取り入れてもよかった。来年度は工夫したい。

おもしろ科学あそび教室

今日、子どもたちの中には科学的知識を多く持つ子が耳につくが、果して自分で実際に実験したりして身につけたかどうか疑わしいことがある。今回は、安全で身近にできる実験を通して、科学の持つ“おもしろさ”を経験しようと考えた。

期 間 昭和61年7月25日（木）～8月26日（月） 午前10時～正午 全5回

会 場 白梅会館

参加者 7人×5回＝35人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 25	温度計を作ってみよう	不用になったボールペンで作成	宮岡 武志氏
8. 8	ふしぎなふんすい	体積の変化を実験で知る	〃
8. 10	色水であそぼう	酸性、アルカリ性を知る	〃
8. 24	ふしぎな色水	酸とアルカリの具体的実験	〃
8. 26	色を染めよう	酸、アルカリ、中和の応用	〃

総 括

少人数であったが、内容的にはすばらしく、子どもたちの生き生きした目の輝きが印象的だった。

(3) 青 年

青年教室「スキー用具を科学する」

青年に人気のあるスポーツ「スキー」をとりあげ、用具の基礎知識、体力、技術にあった正しい選び方を学びながら若い人の仲間づくりを目指し実施した。

期 間 11月7日（木）～12月19日（木） 午後7時30分～9時30分 全7回

会 場 公 民 館

参加者 12人×7回＝84人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 7	オリエンテーリング	仲間づくりと講師紹介	相田 光一氏
11. 14	スキー板の特性 (1)	スキー板はなぜ曲るか。	〃
11. 21	〃 (2)	スキー板の長さ、かたさは滑りをどう変化させるか	〃

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1 1. 2 8	スキー靴の特性 (1)	ブーツカントは必要なのか	相田 光一氏
1 2. 5	" (2)	ブーツをしめすぎていないか	"
1 2. 1 2	ストックについて	ストックの長さ、バランスは	"
1 2. 1 9	ビンディングについて	正しい調整とは。体力と脚力との関係	"

総 括

P・Rの仕方が悪いのか、それとも企画が悪いのか青年（25歳未満）が予想した程集まらなかった。初心者を対象としたのだが参加者が中上級者が多かったため話の内容が高度になり、初心者と中上級者の間で話題が別れてしまった。また、参加者の年齢に開きがあったため仲間づくりがいま一つ盛り上がらなかった。

中国語会話

中国語の学習を通して、日中の文化交流をはかり、中国という国を理解していく場として実施した。

期 間 昭和60年6月12日（水）～10月30日（水） 午後7時～9時 全20回

会 場 公 民 館

参加者 18人×20回＝360人

月 日	内 容	講 師	月 日	内 容	講 師
6. 1 2	あ い さ つ	曾 紅 氏 (東海大留学生)	8. 2 8	第 九 課	曾 紅 氏 (東海大留学生)
6. 1 9	第 一 課		9. 4	第 十 課	
6. 2 6	第 二 課		9. 1 1	第 十 一 課	
7. 3	第 三 課		9. 1 8	第 十 二 課	
7. 1 0	第 四 課		9. 2 8	第 十 三 課	
7. 1 7	中国語で料理		1 0. 2	中国語で料理	
7. 2 4	第 五 課		1 0. 9	第 十 四 課	
7. 3 1	第 六 課		1 0. 1 6	第 十 五 課	
8. 7	第 七 課		1 0. 2 3	第 十 六 課	
8. 1 4	第 八 課		1 0. 3 0	お わ り に	

総 括

長期のわりには、皆熱心に参加していた。語学に対する要求は高い。

終了後、自主グループとして活動をはじめた。

ロックバンドのためのサウンドクリエイト講座

ロックバンドの演奏技術の向上とバンド間の交流を図るなかで、青年が主体的に公民館に関わっていく機会として実施した。

期 間 昭和60年10月2日（水）～12月18日（水） 午後7時～9時 全10回

会 場 公民館音楽室

参加者 33人×10回＝330人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 2	オリエンテーション	教室の説明、自己紹介	長島 弁蔵氏
10. 9	器材とチューニング	実技と指導	〃
10. 23	R Y T H M	〃	〃
10. 30	C H O R D	〃	〃
11. 13	S C A L E	〃	〃
11. 20	楽器別クリニック	〃	〃
11. 27	〃	〃	〃
12. 4	〃	〃	〃
12. 11	〃	〃	〃
12. 18	ま と め	発 表 会	〃

総 括

参加者の年齢層に幅があったため（中学生～社会人）、十分な意味でバンド間の交流を図ることができなかったが、青年（主に中・高校生）が公民館に関わる一つのきっかけとなった。

20歳のつどい

成人者みずからが、成人することの意味を考え、地域の人間関係などを再確認する場として実施した。実施にあたり、対象者に呼びかけ、“20歳のつどい実行委員会”を結成し準備にあたった。

日 時 昭和61年1月15日(水) 午前11時15分～午後1時 成人式後に実施

会 場 市民会館第4・5集会室

主 催 20歳のつどい実行委員会、福生市公民館

内 容 (1) 立食パーティー

(2) 抽 選 会

(3) 「カリカリ」によるバンド演奏

(4) 記念写真コーナー

(5) ミス・ミスター成人式の選出

(6) フィーリングカップル3対3

参加者 200人

20歳のつどい実行委員会

20歳のつどいの企画、実施等、成人者みずからの手によってつくりあげることを通して仲間づくりをすすめ、新たな青年の交流の場として実施した。

期 間 昭和60年12月7日(土)～61年1月15日(水) 全7回

会 場 公民館集会室

参加者 4人×7回=28人

月 日	テ ー マ	内 容
12. 7	オリエンテーション	自己紹介、過去のつどいの説明
12. 14	企 画 (1)	つどいの企画づくり
12. 20	" (2)	企画案完成
1. 5	準 備 (1)	打ち合わせ
1. 12	" (2)	買い出し、打ち合わせ
1. 13	" (3)	会場設営、最終打ち合わせ
1. 15	最終準備、本番	会場設営、本番

総 括

ここ数年の例にもれず、今年も実行委員が4名と少なく、十分な企画・準備には人数が不足した。成人者みずからの手によってつくりあげる実行委員会形式には限界を感じた。

(4) 障 害 者

青年学級「にじのはらっぱ」（障害者青年学級）

障害を持った青年が、集団活動をしながら仲間づくりや基礎的生活習慣を身につける場として

60年6月より開設された。

期 間 昭和60年6月2日（日）～61年3月16日（日） 午前10時～午後3時

全20回

会 場 公民館および野外

参加者 21人×20回＝420人

月 日	内 容	場 所
6. 2	開 級 式	公 民 館
1 6	ボーリング大会	中神ヤングボウル
7. 7	プラネタリウム（七夕）、小ハイキング	羽村児童館、郷土資料館
2 1	プール、調理	福生一中
8. 4	〃	〃
1 8	〃	〃
8/31～9/1	夏 期 合 宿	清里高原
1 5	文化祭作品づくり	公 民 館
1 0. 6	〃	〃
2 0	障害者弁論大会および運動会	世田谷および市民体育館
1 1. 3	市民文化祭参加	公 民 館
1 7	ハ イ キ ン グ	秋川丘陵
1 2. 1	調理、忘年会計画	公 民 館
1 5	忘 年 会	福生一中
61.1. 5	新年会（もちつき、新年茶会）	公 民 館
1 9	スケート大会	昭和記念公園
2. 2	プラネタリウム（冬の星座）、小ハイキング	羽村児童館、羽村動物公園
1 6	史跡ハイキング	市 内
3. 2	室内レクリエーション、閉級式計画	公 民 館
1 6	閉 級 式	〃

総 括

初年度ということで、やや行事に追われるような傾向もあったが、公民館という一般市民とも交わる機会のある場で、公民館主催で障害者の教室が持たれたことは、障害者への理解を深めていく上では大きな意義があった。

(5) 婦 人

婦人学級「地域の中で子育てを」

地域のつながりが薄らいっている中で、子供同志、親同志の交流もなくなりつつある。それを少しでも取りもどすために公民館を一つの地域と見立てて井戸端づくりを試みた。

日 時 昭和60年5月17日～9月13日 午前10時～正午 全15回

場 所 公 民 館

参加者 10人×15回＝150人

月 日	内 容	講 師
5. 17	オリエンテーション	
5. 24	私と公民館……公運審として、また利用者の一人として見た公民館	秋山 典子氏
5. 31	うんしんおばさんを囲んで……公運審で「うんしんおばさんだより」発行者の佐久間さんと話し合い	佐久間登世子氏
6. 7	保母を囲んで1～3才の子供のことを中心に話し合い	
6. 14	子供に大切な本とは……出版界をとりまく環境、子供に大切な本、良い本の選び方	須田 三郎氏
6. 21	地域文庫活動から ～ 文庫活動を通して見た子供の本の選び方	赤城 幹子氏
6. 28	保母を囲んで話し合い	
7. 5	子供が子供らしく育つ環境とは……秋川市の「ころりん村幼稚園長の実践を通した自然と子供のかかわりを聞く。	細谷勇太郎氏
7. 12	1～8回までの話しのまとめ	
7. 19	保母を囲んで話し合い	
7. 26	青年から見た今の母と子	斉藤 明朗氏

8. 2	人間の成長とは……生物の一つとしての人間の成長	宮岡 一雄氏
8. 30	学級をふりかえて……子供の成長と母親の変化	
9. 6	” ”	
9. 13	これからどう自主的に運営していくか	

総 括

「地域の中で子育てを」のタイトルどおり、講師も市内に在住の方々をお願いし講座内で解決、理解できないことなどがあった場合、身近に相談できるようにしたのだが、やはり講師は先生であって、良き隣人とはなりえなかったようだ。やはり一度だけの講義で知り合っただけでは無理なのか。参加者同志は、うまく横のつながりができ共同保育という形で関わり合っている。

婦人学級「育児観の変遷をたどる」

とにかく目先のことが気になりがちなお母さんが、育児観の変遷をたどりながら、真に子供の育ちを見る目を養う機会として実施した。公民館保育を併設。

期 間 昭和60年11月7日（木）～61年3月6日（木） 午前10時～正午 全15回

会 場 公 民 館

参加者 19人×15回＝285人

月 日	内 容	講 師
11. 7	オリエンテーション	
14	子育ての問題	岡本 富郎氏（白梅短大助教授）
21	昔、福生の子どもは	高崎 伊平氏（元小学校 校長）
28	子ども観のうつりかわり	久保田 浩氏（白梅短大 教授）
12. 5	保護者学習会	
12	戦前の子ども	岡本 富郎氏
19	戦後の子ども	”
61.1. 9	その家のしきたり	”
23	昔の子育ての知恵	久保田 浩氏
30	保育映画鑑賞	
2. 6	保護者学習会	

月 日	内 容	講 師
2. 13	いま、親たちは (I)	久保田 浩氏
20	” (II)	”
27	保護者学習会	
3. 6	ま と め	

総 括

子育ての歴史を学ぶ中で、女性の地位の低い時代に、子供のために立ち上がった女性が大きな仕事をなしたことに、参加者も勇気を持ってくれたようである。

それとともに、地域で母親同士が結びつくことの必要性を感じとってくれたようである。講座終了後自主化した。

婦人問題講座「差別撤廃条約とわたしたち」

婦人問題をより多くの市民に理解してもらい、婦人問題の学習を深めていく場として実施した。

期 間 昭和60年5月9日(木)～6月20日(木) 午後7時30分～9時30分
全7回

会 場 公 民 館

参加者 23人×7回＝161人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 9	準 備 会	どんなことを学習したいか	
5. 16	”		
5. 23	差別撤廃条約とは何か	差別撤廃条約とはどういうものか	中島 通子氏 (弁 護 士)
5. 30	”	前回の講義をうけての話しあい	
6. 6	条約から学んでほしい事	平和と男女平等、性による分業の変 革、平等権を社会権として	金城 清子氏 (東京家政大 教授)
6. 13	”	前回の講義をうけての話しあい	”
6. 20	ま と め	これからの活動について	

総 括

講座開設前から、市民との話し合いの中でうまれた講座のためか、終了後は、福生市婦人問題連絡会として活動がはじまった。

婦人学級「子育てはだれのもの」

子育てをめぐるさまざまな問題を考えあう機会として、若い母親を対象に実施した。

期 間 昭和60年5月16日(木)～10月3日(木) 午前10時～正午 全15回

会 場 公 民 館

参加者 15人×15回=225人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 16	はじめに	オリエンテーション	
5. 23	婦人学級に参加したこと	自己紹介、参加の動機	
5. 30	”	何を学びたいか	
6. 6	保護者学習会	子どもをあずけること	青野 保恵 (公民館保育者)
6. 13	自分にとって子育てとは?	作文をよみあう	
6. 20	”	”	
6. 27	保護者学習会	子どもの生活リズムについて	加藤 武子 (公民館保育者)
7. 4	“泣く”ということ	運営会議の報告、話し合い	
7. 11	夏休みをどうすごすか	夏休みの計画 生活リズムについて	
7. 18	生活リズムとは	生活時間調べから生活リズムを考える	
9. 5	生活リズムはどうなっ たか	夏休み中の生活リズム 運営会議の報告	
9. 12	夫婦と子どものかかわ り方	夫婦が子育てにどうかかわっていくか	大堀 容子氏 (ひこばえ 幼稚園)
9. 19	なぜ夫婦で子育てをして いくか	前回の講義をうけての話し合い	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 2 6	幼児室に子どもをあずけて	作文を読みあう 運営会議の報告	
1 0. 3	保護者学習会	地域で子どもを育てるとは	増田 公子氏

(公民館保育者)

総 括

はじめの2、3回に参加者の学習要求をつかむために話し合いを中心にしたが、要求をまとめ、テーマ設定していくことがむずかしかった。

幼児教育学級「みんなで考えよう、みんなの子育て」

子育てについて考え合うなかで、自分の生き方を見つめ直す場として実施した。

期 間 昭和60年11月8日(金)～昭和61年3月7日(金) 午前10時～正午
全15回

会 場 公民館集会室

参加者 12人×15回＝180人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1 1. 8	オリエンテーション	幼児室について	担 当 職 員
1 1. 1 5	自己紹介	自己紹介(話し合い)	〃
1 1. 2 5	〃	私の子育て(話し合い)	〃
1 1. 2 9	幼児室から	子どもを預けてみて(話し合い)	〃
1 2. 6	公民館って何?	公民館はなぜあるのか	秋山 典子氏
1 2. 1 3	子育てと環境 (1)	子育てにとってよりよい環境とは	細谷勇太郎氏
1. 1 0	幼児室から	生活リズムとは	中川キミ子氏
1. 1 7	子育てと環境 (2)	私にとっての子育てと環境(話し合い)	細谷勇太郎氏
1. 2 4	子育てと本 (1)	子育てにとっての本とは	赤木 幹子氏
1. 3 1	〃 (2)	私にとっての子育てと本(話し合い)	〃
2. 7	〃 (3)	〃 〃	担 当 職 員
2. 1 4	幼児室から	幼児室で大事にしている事とは?	増田 公子氏
2. 2 1	子育てと音楽 (1)	子育てにとって音楽とは	小林 美実氏

2. 28	子育てと音楽 (2)	私にとっての子育てと音楽 (話し合い)	担 当 職 員
3. 7	ま と め	幼児室は何を残したのか (話し合い)	〃

総 括

公民館幼児室の主旨を講座の中でどのように伝えていくのか、事業編成のからみも含めて、来年度の検討課題としたい。また、終了後は、自主グループ「きんこんかん」として活動を継続。

家庭教育学級 (手づくり絵本を創る)

今日の核家族、少子出産傾向の中で、子どもを育てていくことが、大変むずかしい一面を持っています。その1つが、地域の中で、子どもが育ち合うという条件が非常におとろえて来たことです。第2には、この20年間に、母子密着状況が一層進み、そのために、子どもと母親がお互に、お互の成長を疎外しあっているという状況が生れてきていること、第3に、子育ての「カン」とか「コツ」といった、文化的子育て伝承が伝わらなくなって来ていること、第4に、物が豊かになってきたために、親も子も、自から児童文化を伝える力や、創造していく力が非常に弱まって来たことです。子どもが、一つの物を媒介に、色々なイメージを創造し得る力が極端におとろえて来ていることです。

こうした現実の中で、今回は、子どもの文化に視点をあてた。乳幼児期の生活の中心が、あそびにあることは言うまでもないが、子どもに与えられる文化財が、テレビに、おもちゃ、絵本といった商品で、そのまま与えるという形が多くなっています。あらためて、その関係を考え直してみる。絵本をつくりながら、子どもにとって、良い文化財は何かを考え直すとともに、子どもの成長をテーマにすることによって、自らの子育てを見直していく場とした。

期 間 昭和60年5月13日から9月9日 毎月曜日 午前10時～12時 全15回

会 場 松林分館

参加者 18名×15回に270人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 13	オリエンテーション	自己紹介、公民館とは、幼児室の運営	担 当 職 員
20	絵本とは	子どもにとって絵本とは	武藤 順子氏 (絵本の会)
27	子育てについて語る I	私の子育てについて	中川キミ子氏 (保母)
6. 3	どんな絵本をつくろうか	子どもの成長をテーマにストーリーを考える	武藤 順子氏

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 1 0	絵本のわくぐみを考える	文と絵を割りつける	武藤 順子氏
1 7	ひな型をつくってみよう	マメ本をつくる	〃
2 4	子育て、いま子どもは Ⅱ	保育室から、絵本の経験を伝える	穴戸
7. 1	絵の描き方	絵本の描き方の原則	武藤 順子氏
8	絵本の製作	絵本の製本と豆本づくり	〃
1 5	〃	〃	〃
2 2	子どもの生活を考える Ⅲ	生活時間を見直す	増田公子氏（保母）
2 9	絵本の製作	絵本の製作	武藤 順子氏
8. 2 6	〃	〃	〃
9. 2	絵本製本	絵本製本	〃
9	絵本の合評	絵本の完成発表	
3 0			

この間、子育てにかかわってのレポート4本を課題にした。絵本を作るということは、時には徹夜もせざるを得ないという状況があったが、参加者ほとんどが絵本を完成し、東京絵本展（上野美術館）に10名が出展した。

なお、併設した幼児室には、16名の乳幼児が参加した。

女 性 史

歴史を学びながら時代を考え、(2)、女性として、母として、さまざまな矛盾をかかえた一個人として、婦人解放、自己解放への道をさぐる婦人問題の解決のために歴史に学び、(3) 地域における女性史研究の方法論を身につけて行く。

期 間 昭和60年4月24日（水）～6月26日（水） 午前10時～12時 全8回

会 場 松林会館

参加者 6人×8回＝48人 自分史学習 30回×4人＝120人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 2 4	オリエンテーション	開 講 式	
5. 8	大正デモクラシーと女性	大正期婦人運動	

月	日	テ	ー	マ	内	容	講	師
5.	1 5	昭和初期の婦人運動			都市市民としての婦人運動			
	2 2	日中戦争と婦人			国家総動員法下における婦人運動「国家総動員法」「政府の女性徴用」(山川菊栄)、「祭日ならざる日日」宮本百合を史料として読みレポート	「女子勤労挺身隊長と労務監督者の座談会」「結婚、家庭、子供」等の史料を読み、討論	早川 紀代氏 (女性史研究者)	
	2 9	〃						
6.	5	〃						
	1 2	太平洋戦争と婦人						
	2 0	太平洋戦争と婦人						
	2 7	総力戦下の婦人運動			銃後の女たち			

基本的文献史料を毎回レポートの課題とした。以後毎週、自分史の学習を3月末まで、毎週行なった。

家庭教育学級

幼児の成長・発達を考えていくとともに、主婦のおかれている状況を見つめ直し、これからどう生きるか、という視点で実施した。

期 間 昭和60年11月18日(月)～昭和61年3月17日(月) 午前10時～12時
全15回

会 場 松林分館

参加者 10人×15回＝150人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1 1. 1 8	オリエンテーション	講座の説明、簡単な自己紹介、役員を決める	増田 公子氏
1 1. 2 5	自己紹介 ①	自己紹介	
1 2. 2	〃 ②	〃 運営会議の報告	
1 2. 9	学 習 会 ①	保育室のようす、子供を見る視点 これから学習したいことを出し合う	
1 2. 1 6	学習テーマの検討	これから学習したいことを話し合う	
61. 1. 1 3	幼児の成長・発達を学ぶ ①	映画「さくらんぼ坊や」を観て、話し合う	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 2 0	幼児の成長・発達を 学ぶ ②	映画「さくらんぼ坊や」を観て、話 し合う	
1. 2 7	学 習 会 ②	保育室のようす、子供の生活リズム	萩原千恵子氏
2. 3	幼児の成長・発達と 絵本	幼児の成長、発達と絵本の役割り、 絵本の選び方、他	赤木 幹子氏
2. 1 0	手あそび歌とわらべ歌	幼児の成長・発達とわらべ歌等のもつ 役割り手あそび歌の実践	阿部 和子氏
2. 1 7	地域での自主的な保育 活動を考える	地域で自主的に行なわれている共同保 育の実践に学ぶ	おもちゃ箱 すくすく 中川キミ子
2. 2 4	学 習 会 ②	育ちって何だろう、運営会議の報告	宍戸 夏子氏
3. 3	子育てとは何か	子育ての目標と現実の課題	武田 京子氏
3. 1 0	主婦のおかれている 状況とこれから	女性のライフサイクルと子育て以後 男も女もともに育ちあう子育て	〃
3. 1 7	まとめと反省会		

総 括

子どもと離れ、2時間の有意義な時間をもつことは、子育てにべったりの母親にとって、とても新鮮なようだ。そして、その2時間をいかに充実したものにしていくかも、自分自身の問題であることに気づいている。子育てについての学習が、かえって母親を～あらねばならないというように落ち入らないよう気をつけた。母親にとっては、子どもを一步はなれて見れたのではないかと思う。主婦のおかれている状況など、婦人問題の視点からは、もう一つ、切れてないような気がした。

婦人問題講座「高齢化社会と女の自立」

今日の婦人問題講座は、働くことと看とりの問題を中心に、高齢化社会の中での女の自立を考えてみた。

期 間 昭和61年2月26日(水)～3月26日(水) 午後7時～9時 全5回

会 場 松林分館

参加者 12人×5回＝60人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 2 6	高齢化社会とは	自己紹介、高齢化社会と女の問題	谷内真理子氏
3. 5	看とりは女だけなのか	看とりの現状とこれからの課題	富永 静枝氏
3. 1 2	働きつづけることと 老人介護	差別撤廃条約PILLO など世界の動き 働きつづけながら、介護をしている 女の現実、よりよい労働と介護のあり 方をめぐって	沖藤 典子氏
3. 1 9	公的介護、地域ぐるみ での介護	多様化する高齢化社会の中で、公的介 護、地域ぐるみでの介護等を考える	谷内真理子氏
3. 2 6	地域の実状とこれから を考える	福生における公的介護等の実状を認識 し、あらためて、高齢化社会と私たち の生き方を考える	”

総 括

夜間開設のため、働く婦人はもちろん、専業主婦もふくめ参加者層にいろいろな方がみえた。その中で、家庭内介護、それも、女が背負い込む＝性別役割分業＝ことが、現実には多くの犠牲をはらって成り立っていること、そして、もう、女だけでは支えきれないところまできているということが理解されたようである。そして、自身が老いをどう迎えるか、かなり突っ込んだ話し合いがなされた。しかしながら、現実には家庭を、そして、地域をどうしていくのか、話としては理解できても、行動していく力とは、成りえていないと思われる。

福生の実状等については、プログラムの進行の中で出てきたもので、やはり、自分たちの住んでいるところに根をおろすことが大事であると感じた。しかし、準備不足等あり、いまひとつ焦点にかけたようだ。

婦人文章教室

書くことによって、自分自身の生活を客観的にみつめなおすことが可能である。また、自分の考えをまとめ、自分のいいたいことをきちんと伝えられるようになる。そのような目標とともに、女がお互いの状況をさらけ出し、連帯していくための一助とした。

期 間 昭和60年10月17日(木)～12月12日(木) 午前10時～12時 全10回

会 場 松林分館

参加者 10人×10回＝100人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 17	オリエンテーション	自己紹介、参加動機を文章化してきたものを発表、課題文「私」出題	吉村 千穎氏
10. 24	新聞の投書欄に学ぶ	朝日、読売等の家庭欄の投書と題材に文章を学ぶ「私」の提出 課題文「家族」 出 題	〃
10. 31	文章指導 1	「私」の検討 ①	〃
11. 7	〃 2	「私」の検討 ② 「家族」の提出 「自由題」で出題	〃
11. 14	〃 3	「家族」の検討① 「私」の検討③	〃
11. 21	〃 4	〃 〃 ② 「自由題」提出	〃
11. 28	〃 5	〃 〃 ③ 「自由題」検討①	〃
12. 5	〃 6	「自由題」の検討 ②	〃
12. 11	文集作成のための実務作業	校正、カット、表紙印刷	
12. 12	まとめと反省会		〃

総 括

参加者の書く意欲は目をみはるばかりであり、課題を重ねる中で上達していくのがよくわかった。
やはり、実際に自分で書かなければ、意味がないと思われる。

参加者同士が互いに、自分の状況をさらけだし、時に、溝防の厳しい指摘もあり、緊迫した、かつ、充実した時間だった。

文集完成の担当者の手落ちから遅くなってしまった。

幼児教育学級

都市化、核家族化は、地域の日常において、人と人とのつながりの薄れが、幼児にとり、少数子・近隣接触薄で、遊び（知恵や社会性の発達）の機会を乏しいものにしている。そこで、親の育児力や子どもの発達環境づくりにむける機会とした。

期 間 昭和60年5月15日(水)～10月9日(水) 全15回

会 場 白梅会館

参加者 13人×15回＝195人

月 日	内 容	講 師
5. 15	幼児室・学級の 幼児室事業の内容紹介と実施について	
22	紹介と打合せ 学級のすすめ方と保護者会形成・運営 会議について	
29	幼児期の発達Ⅰ 幼児前期の子どもの発達と自立的生 活習慣	幼児教育専門家 大堀 容子氏
6. 5	保護者学習会 幼児室、初期段階での子ども達の適 応状況	幼児室保育者 萩原千恵子氏
12	幼児期の発達Ⅱ 子どもの世界、動作・行動と子ども のこころ	幼児教育専門家 大堀 容子氏
19	〃 育児体験の交歓と日常の親子交流につ いて	
26	子ども育成活動交歓「幼児と絵本＝読み聞かせについて」	おしゃべり文庫 高橋洋子さん
7. 3	生物としての 生物である人間と育児(現代社会の中で)	明治大学教授 宮岡一雄氏
10	人 間 私達の子育て観をふりかえり	
17	保護者学習会 幼児室中期段階の子ども達の様子	幼児室保育者 宍戸夏子氏
9. 4	この夏の子どもと私達の生活・行動	
11	自 由 交 歓 運営会議話題・生活のリズムづくりほか	
18	開かれた日常(家庭・地域)でのおつ き合い	
10. 2	保護者学習会 後半の子ども達の結びつきの様子	幼児室保育者 会田久美子
9	家庭・地域での子育てとこれから	群馬大学教授 萩原元昭氏

総 括

1歳の低年齢幼児が多く激しい泣きが続くが、幼児室保育者、母親(週1回外に頻繁に接する活動)、職員の協力で、後半は遊び多彩。終了以後は、親子合同の型で、館や日常の場で、自主活動となる。

婦人学級“しらうめイブニングひろば”

社会変化の中で、家庭生活のほかに、フルタイム・パートタイム・家内労働（自営・内職）等、仕事に就く潮流にあり、ライフサイクルも大きく変化してきている。また、都市化・核家族化は、生活階層分化等、生活上の身近な人と人とのつながりを薄くしている。そこで、婦人生活の様々な課題を明らかにし、健康で手ごたえある生活づくりと、地域に良きつき合いの場をつくるために、以下のよう

期 間 昭和60年11月11日（月）～12月23日 夜間 全7回

会 場 白梅会館、ほか

参加者 17人×7回＝119人

月	日	内 容		講 師
1 1.	1 1	おしゃべり軽体操、自己紹介・交歓、学級の紹介・希望、打合せ		・指導助言 吉野 チエ氏 (元小・中教諭)
	1 8	おしゃべり軽体操 I	話し合い 息子・娘の成長・独立・結 婚、私の今・夫婦の今	
	2 5	” II		
1 2.	2	場をかえて、「会長」と「ボーリング」		
	9	” III	老後について	
	1 6	” IV	家庭・地域・仕事	
	2 3	講演会 “生活をともにする共有の地域生活空間づくりについて”		群馬大教授 林 知子 (住生活学)

総 括

ふれあい、生活上の語らいの機会が少なくなっている中、主に40～50代の婦人の生活課題を中心に話し合われた。日常生活で“つどう文化”を創くり、今後の生き方を考える契機となる。以後、「ミクリ会」として自主化。仲間づくりと、これからの生活づくりにむけ、月2回 夜間実施となる。

児童文学を考える

幼児を持つ親の中には、絵本・オモチャ、愛情が何よりも大切だと強く思っている人が多い。しかし、その大切な絵本の選択はどのような視点で行なわれているのかと思えば、ほとんど他人まかせが現状のようである。今回は、選択基準を自分自身の中に作ることに、あわせて子どもの文化を広く考えられるように設定した。

期 間 昭和60年5月13日（月）～9月9日（月） 全15回

会 場 白梅会館

参加者 17人×15回＝255人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 13	オリエンテーション	自己紹介・内容の説明等	
5. 20	児童文学 ー1	児童文学の現在の課題	渋谷 清視氏
5. 27	” ー2	物語絵本、民話の絵本の説明	”
6. 3	科学読み物って何だろう	科学読み物の大切さを知る	山辺 昭子氏
6. 10	児童文学 ー3	読み聞かせ方法や絵の問題を知る	渋谷 清視氏
6. 17	子どもの生活を語る	日常生活の様子を話し合う	公民館保母
6. 24	子ども文庫から ー(1)	全国子ども文庫調査報告から	末廣いくこ氏
7. 1	” ー(2)	子どもたちの成長について	”
7. 8	” ー(3)	親の読書の大切さ、必要性	川島 恭子氏
7. 15	” (4)	富士町文庫の中で	”
7. 22	子どもの育ちあい	子ども同士の成長を考える	公民館保母
8. 26	地域文庫から	「海賊艦」の活動から	赤木 幹子氏
8. 28	”	おしゃべり文庫の活動から	高橋 洋子氏
9. 2	世界の絵本から ー(1)	おはなしキャラバンの活動から	石竹 光江氏
9. 9	” (2)	世界の絵本の紹介等	”

総 括

講座終了後、数人の母親が地域文庫の手伝いを始めている。また、石竹氏のおはなしキャラバンの活動のすばらしさに感動し、今でもいろいろと接触を持ち続けていて、活動の幅が広がっている。

(6) 成人・一般

市民文化教室

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟
2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。
(生活への還元・グループへの参加・新しいグループの創造)

(1) 公 民 館 連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。

- (2) 文化連盟 連盟の持つ力を、市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大（参加者や活動面）に役立てる。

昭和60年度 市民文化教室実施状況

文化連盟共催（10）

コース	開講期間	内 容	指 導 者	参加人員
編物・手芸	6月24日（月）から 全10回	半袖サマーセーター、バック	堂田きよ子氏	200人
日本人形	6月 5日（水）から 〃	木目込み人形	酒井 虹晨氏	120人
書 道	9月 6日（金）から 〃	初心者むけの漢字、かな	私市 石蘭氏	220人
茶 道	8月28日（水）から 〃	尾州久田流薄茶点前	杉浦 晃陽氏	140人
俳 句	6月 6日（木）から 〃	現代俳句のやさしい鑑賞と作り方	来住野臥久氏	130人
民 踊	8月10日（土）から 〃	ゆきの宿、中津小唄	菊泉寿三福氏	80人
油 絵	6月 9日（日）から 〃	油絵の初歩	栗原 一郎氏	130人
尺 八	7月11日（木）から 〃	都山流尺八の初歩的な吹奏習得	城戸 皓山氏	50人
民 謡	8月23日（金）から 〃	伊勢音頭、秋田大黒節	藤本弥尾地氏	150人
詩 吟	7月 3日（水）から 〃	基本的な大意、発声、吟じ方を 習得する	綿貫 吼石氏	70人

公民館主管（1）

ペン習字 2月13日（木）から全7回

ペン習字の基本 高山 一美氏 30人

	開 講 期 間	内 容	指 導 者	参加人員
ペン習字	2月13日（木）から全7回	ペン習字の基本	高山 一美氏	30人

市民大学講座「演劇」

演劇の基礎から市民会館小ホールでの上演発表会まで実施した。

期 間 昭和60年4月25日（木）～10月27日（木） 全21回

会 場 公民館集会室および市民会館小ホール

参加者 15人×21回=315人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 25	交 流	自己紹介・演劇概論	福島靖夫氏 (劇団ひまわり俳優)
5. 2	演劇概論	講師による演劇概論	
5. 9	体操・発声練習	基本となる体操・発声練習	
5. 16	体操・朗読実習	基本となる体操・朗読実習	
5. 23	〃	〃	
5. 30	〃	〃	
6. 6	体操・演技実習	基本となる体操・演技実習	
6. 13	〃	〃	
7. 4	演技実習	演 技 実 習	
7. 11	〃	〃	
7. 18	〃	〃	
9. 5	〃	〃	
9. 12	〃	〃	
9. 13	〃	〃	
9. 26	〃	〃	
9. 27	〃	〃	
10. 17	〃	〃	
10. 18	リハーサル	小ホールでのリハーサル	
10. 24	演技実習	演 技 実 習	
10. 26	〃	〃	
10. 27	上 演	小ホールでの上演	

総 括

小ホールでの上演に約210人の観客が集まった。講師と参加者の努力と協力により、無事に上演できた。

16ミリ映写機操作講習会

16ミリ発声映写機の操作技術の修得と、視聴覚教材の知識を身につける機会とした。

期 間 昭和60年4月5日(金)～4月8日(月) 午後7時～10時 全4回

会 場 公 民 館

参加者 14人×4回＝56人

月 日	内 容	講 師
4. 5	視聴覚教育と映写機の機構と操作	西 野 光 芳 氏 (立川社教会館視聴覚係長)
6	操作練習	
7 AM 9:00～PM P.M 4:00	”	
8	自由操作と個別操作	

総 括

年々参加者が少なくなりつつあるので、特に開催時期(子供会等の役員改選後)やP.R.方法などに工夫をしてみたい。修了証取得者のために、実地操作の機会を設けていきたい。

市民大学講座・法律「マスコミをにぎわす法律」

身近な法律を通して、我々の社会に法がおかれていることの基本的意味を考える機会とした。

期 間 昭和60年11月11日(月)～12月16日(月) 午後7時半～9時半 全6回

会 場 公 民 館

参加者 10人×6回＝60人

月 日	内 容	講 師
11. 11	再 審 制 度	梅 原 基 雄 氏 (淑徳短大講師)
18	”	
25	男女雇用機会均等法	高 橋 保 氏 (創価大教授)
12. 2	”	
9	会社更正法	伊 藤 真 氏 (一ツ橋大教授)
16	被害者救済法	梅 原 基 雄 氏

総 括

最近新聞紙上ににぎわす法律をとりあげ、そのねらいとする所を中心に学習したが、その中で法の目的について活発に話し合いが持てた。毎年継続して参加してくれる方がふえた。

講座「障害者の生活を考える」

障害者の性や結婚について考えることを通して、障害者への理解を深める機会とした。

期 間 昭和61年2月19日（水）～3月19日（水） 午前10時～正午 全4回

会 場 公 民 館

参加者 15人×4回＝60人

月 日	内 容	講 師
2. 19	人間と性、障害者と性	大 井 清 吉 氏 (学芸大教授)
2 6	障害児の性発達	
3. 12	障害児の性指導	
1 9	障害者の結婚	

総 括

障害を持った人の家族の方が多かったが、それまで障害者にとっての性や結婚をタブー視してきたが、それらを正しくとらえ、立ち向かうきっかけを作れた。

教育講座「いじめを考える」

非行・登校拒否と並んで教育現場での三大病理のひとつといわれる「いじめ」の構造をとらえ、実態を追求する中で問題解決の糸口を探る機会とした。

期 間 昭和61年3月7日（金）～3月28日（金） 午前10時～正午 全4回

会 場 公 民 館

参加者 21人×4回＝84人

月 日	内 容	講 師
3. 7	いじめの特質と背景、いじめ防止対策の基本	江 川 玫 成 氏 (学芸大助教授)
1 4	いじめっ子の早期発見	
2 0	いじめっ子、いじめられっ子の個別指導	
2 8	親と子の望ましい関係の確立	

総 括

「いじめ」発生の構造の中から、大人の役割の重要性が再認識された。

公民館（本館）利用者研修会

自分達の活動に追われがちな各サークルが、サークルの型をこえて公民館とは何か、自主グループの在り方とは何かについて考える機会とした。

日 時 昭和61年3月27日（木） 午後7時半～9時半

会 場 公 民 館

参加者 60人（39サークル）

月 日	内 容	講 師
3. 27	公民館と自主グループ活動	島 田 修 一 氏 (中央大教授)

総 括

1年に1度、公民館を利用しているサークルが、共通の基盤で同じことがらを学べるよい機会となった。今後、「つどい」等、交流しあう場へきょうの成果を結びつけていきたい。

聴覚障害者のための映画会

聴覚障害者のための字幕付き映画を上映し、映像文化に接する機会とした。

会 場 公 民 館

参加者 89人

月 日	作 品 名	時 刻	入場者数
60.6. 10（月）	蒲田行進曲	午後7時半	17
8. 12（月）	翔べ、イカロスの翼	〃	18
10. 21（月）	思えば遠くへ来たもんだ	〃	15
12. 13（金）	泣きながら笑う日	〃	18
60.2. 24（月）	天国の駅	〃	21

総 括

入場者数が少ないようだが、市内の対象人員（約90名）からすると今後もそう増加も望めないようである。しかし、まったく邦画を楽しむ機会のない聴覚障害者にはこの映画会は貴重な場であろう。

講演会「ナイロビ世界会議から」

国際婦人の10年の最終年をかざる、ナイロビ世界会議の模様を参加者から聞き、これからの婦人の課題を明らかにしていく機会として実施した。

期 間 昭和60年8月9日(金) 午後7時30分～9時30分 全1回

会 場 公 民 館

参加者 10人×1回=10人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 9	ナイロビ世界会議から	民間フォーラム、政府間会議 ナイロビ会議の意味	折井美耶子氏 (女性史研究者)

総 括

七夕の真最中で、夜間であったが、10人の参加者があり、関心が高いことをうかがわせた。

文学教室「宮沢賢治を読む」

むずかしい、というイメージがありがちな文学だが、だれもが文学のおもしろさ、たのしさを味わえる機会として実施した。

期 間 昭和61年3月3日(月)～3月31日(月) 午前10時～正午 全5回

会 場 公 民 館

参加者 16人×5回=80人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 3	真青ないかり	賢治の生涯 友への手紙「春と修羅」「土神と狐」	武田 秀夫氏
3. 10	親しいものとの別れ	暗いジョバンニと暗い賢治「水仙月の四月」 妹トシとの別れ、「ひかりの素足」	〃
3. 17	父 と 子	「鳥を捕る人」をめぐる 「百年」「貝の火」	〃
3. 24	異 空 間	幻想する自己と批判する自己、異空間 幻想の消えるさびしさ「鳥をとるやなぎ」	〃
3. 31	銀河鉄道の夜	「銀河鉄道の夜」推移 第3次稿から第4次稿へ	〃

総 括

朗読を通してすすめたので、難解な文章も比較的、わかりやすく感じられ、いろいろな作品にふれることができた。

ハンドメイド年賀状教室

木版画で年賀状をつくり、楽しみながら、参加者の交流を図れる場として実施した。

期 間 昭和60年12月6日（金）～12月13日（金） 全3回

会 場 公民館美術工作室

参加者 22人×3回＝66人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
12. 6	オリエンテーション	教室の説明、自己紹介、下絵、転写	長島 幸子氏
12. 9	版画をつくろう	彫り、木版画作成。	〃
12. 13	印刷しよう	試し刷り、本刷り、年賀状完成	〃

総 括

参加者が多く、活気に満ちていたが、回数が3回と少なかったため、交流を深めるまでには至らなかった。

教育講座、進路を考える。

教育問題は今日、社会問題の一つになっているが、特に、中学校になると、受験を中心とした、さまざまな問題が起きてきている。高等学校進学率が90%を超えてきている中で、あらためて、高等学校とは何かを中心に、中学生にとって進路とは何かを考える機会とし、福生第2中学校PTA3年学年委員会と共催で実施し、会場も松林分館ではなく、中学校の近くにした。

期 間 昭和60年7月13日（木）～10月13日（金） 全5回

会 場 かえで会館

参加者 53名×5回＝265人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 13	青年期にとって高等学校とは なぜ、高校に行くのか	青年期にとって高校とは	田代三良氏 高校生（岩沼）著者

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 18	専科別高校の内容	小金井工業高校の実践を通して 五日市高校商業科の実践から	長 尾 正 二 氏 小金井工業教諭 中 野 保 浩 氏 五日市高校教諭
22	と 高校生の現状	北多摩高校の現状 定時制高校の現状と実践から	渡 辺 厚 子 氏 北多摩高校教諭 山 下 克 磨 呂 氏 国立高校教諭
25		福生高校の現状をとりくみ 青梅農林高校の現状と取り組み	小田川 兵 吉 氏 福生高校教諭 高 橋 俊 之 氏 青梅農林高校
10. 13	生きること、学ぶこと、 進路を考える	教育とは、何かを、子どもの立 場からとらえ直す	大 田 堯 氏 日本教育学会会長

PTA入門講座

新しくPTAの役員になった人々のために、PTAの本来の活動のあり方をふくめて、PTAについての理解を深めることを目標にした。

期 間 昭和60年6月27日（木）～7月11日 午後2時～4時 全4回

会 場 松林会館

参加者 6人×4回に24人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 27	PTAとは	PTAの歴史と役割	糸井れい子氏（全P連）
7. 4	学級学年活動を豊かに	学級、学年委員会の役割と活動	味岡 尚子氏（全P連）
6	広報活動と広報づくり	広報活動のやり方、つくり方	近藤みどり氏（全P連）
7. 11		”	”

万葉を読む（市民大学講座、文学）

古典、万葉集の系統的理解とともに、時代背景をさぐり、日本古典文学を学ぶ機会とした。

期 間 昭和60年11月9日（土）～12月14日（土） 午前10時～12時 全4回

会 場 松林分館

参加者 15名×4回=60名

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1 1. 9	人麻呂の生きた時代	人麻呂の生きた時代背景を考える	高 野 正 美 氏 立川短大教授
1 6	人麻呂の人と作品	人麻呂の作品と作品の特徴をみる 特に長歌を中心に	
3 0	”	作品No. 40, 109, 167, 48, 207, 2441, 208, 209, 210	
1 2. 1 4	”		

市民大学、歴史、福生市史を学ぶ

近年、新しく引越してきた住民や、地域の歴史をきちんと知りたいという人々の要求がある。福生市史の編纂も始まり、“みずくらいど”の発行もはじまった。この期に、福生市史編纂の最新の成果を出来るだけ多くの人に知ってもらい機会とするとともに、郷土の歴史学習を通して、地域を考える機会にした。

期 間 昭和61年2月27日(木)～3月30日 午後7時30分～9時30分 全6回

会 場 松林分館

参加者 11人×5回=55人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 2 7	通史に見る福生	福生の古代から江戸まで	立 川 愛 雄 氏 (文化財審議委員)
3. 6	西多摩の中世 I	滝山城を中心とした中世の西多摩	中 田 正 光 氏 (五日市小学校教諭)
3. 1 3	中世の福生、人と暮らし	後北條氏支配と福生郷	久保田 昌 布 氏 (駒沢大学講師)
3. 2 0	近世の福生村、熊川村	近世の福生、熊川村の生活を通	坂 上 洋 之 氏 (多西小学校教諭)
3. 2 7	近世の福生村、熊川村	し近世農林の経済を見る	

総 括

小学校4年生から70才まで幅広い参加を得ることが出来た。歴史を通して地域の文化的風土を考える論義がなされた。

松林木工作教室「つり棚に挑戦」

実用性に富み、インテリアとしても有用なつり棚の製作を通し、手作りのよさ、創作するよろこび専門的技術の取得をめざした。また、大人同士の横のつながりをつくる機会として実施した。

期 間 昭和61年3月1日（土）～3月29日（土） 午後2時～6時30分 1日2回

全10回

会 場 松林分館

参加者 5人×10回＝50人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 1	オリエンテーション	自己紹介、工程の説明	野口 偉雄氏
	木 取 り	木 取 り	〃
3. 8	墨 つ け	毛引きによる墨つけ	秋池 俊彦氏
	加 工 ①	側板と地板の継ぎ部、ほぞ穴掘り	〃
3. 15	加 工 ②	中棚と側板、中仕切と天板、地板の継ぎ部	〃
	③	中棚、中仕切の継ぎ部	〃
3. 28	④	側板と天板の継ぎ部	〃
	⑤	ペーパーがけ、組み立て	〃
3. 29	仕上げ ①	目 止 め	野口 偉雄氏
	②	塗 装	〃

総 括

参加者がたいへん少なかった。つり棚という作る物のPRしかせず、作り方の技術的な本物指向の中味が伝わらなかったからなのだろうか。

製作は、かなり難かしかったが、回を重ねるごとに技術的な上達が見られた。製作のあい間に、講師より興味深い話もあり、たいへん参考になったようだ。

松林ひだまりハイキング

秋の一日、紅葉を満喫しながら、山歩きを楽しむ。

日 時 昭和60年11月10日（月） 午前7時～午後5時

場 所 川 苔 山

参加者 24人

講 師 佐久間直冬氏 佐藤 克年氏

コース 電車 福生駅 — 奥多摩駅 — バス 川乗橋 — 歩行50分 細倉橋 — 歩行45分 百尋の滝 — 歩行130分
歩行15分 川苔山 — 曲ヶ谷北峰 — 歩行 赤久奈尾根 — 120分 川井分岐点 — 歩行45分
電車 古里駅 — 福生駅

総 括

天候が思わしくなく、期待した展望は得られなかった。広報等で、ある程度きつい山行になることを伝えたが、ネーミングのハイキングというものにはそぐわなく、若干、弱音を出した人がでてしまった。山々の紅葉がすばらしく、落葉をふんでの山歩きを満喫した。

松林分館利用者交流会

利用者相互の交流、館との連絡調整などのため実施した。

日 時 昭和60年9月14日(土) 午前10時～12時

場 所 松林分館

参加者 10人

内 容 自己紹介等、サークルの情報交換、公運審より、だれでもなんでも展について、他

総 括

今年度の利用者交流会は一回しか開催できなかった。今後は定期的に実施できるようにしてかなければならないと痛感している。また、このような集まりの中で、自分たちのサークル活動と“公民館”ということを考えられるような人々を増やしていかなければならないだろう。

松林ホームシアター

主に子どもたちに、すぐれた映像文化、素ばなし、等の鑑賞の機会として実施した。また、

月 日	内 容	時 間	参加人数
4. 13	典子は今	午後2時30分	45人
4. 14	〃	午前10時～午後7時	59人
5. 12	チョコレート戦争	午前11時、午後3時	135人

月 日	内 容	時 間	参加人数
6. 15	赤いトラックと8人の子どもたち	午後2時30分、7時30分	60人
7. 20	こわーいおはなし会（口演童話かたりべ）	午後7時	53人
8. 17	シネマフェスティバル for Peace	（別 掲）	66人
18	”	”	46人
19	”	”	63人
9. 28	大どろぼうホッツェンプロッツふたたび	午後2時	29人
	あらわる		
	鉄 道 員	午後7時30分	12人
10. 26	野生のエルザ、チャップリンの犬の生活	午後1時30分	40人
27	チャップリンの犬の生活	午前10時	60人
	野生のエルザ	午後3時	80人
11. 30	オズの魔法使い	午後2時	53人
	大人は判ってくれない	午後7時30分	18人
12. 26	ジャングル大帝、樫の木モック	午前10時30分、午後2時	120人
1. 18	ふ る さ と	午後7時30分	15人
19	”	午後2時	6人
2. 15	マ タ ギ	午後2時、7時30分	14人
3. 28	走れメロス	午前10時30分、午後2時	70人

シネマフェスティバル for Peace

8. 17 午後2時 おこりじぞう、ピカドン、ヒロシマのうた
午後4時 禁じられた遊び
午後7時30分 地下水道
8. 18 午前10時30分 禁じられた遊び
午後1時30分 予言、にんげんをかえせ、ヒロシマ原爆の記録
3時30分 禁じられた遊び
5時30分 核戦争後の地球、ヒロシマ・ナガサキ — 核戦争のもたらすもの
7時30分 灰とダイヤモンド
8. 19 午前10時30分 ヒロシマのうた、予言、にんげんをかえせ

8.	19	午後2時	おこりじぞう、ピカドン、ヒロシマ原爆の記録
		7時30分	抵抗の詩
だれでもなんでも展（松村分館文化祭）			
地域に開かれた文化祭をめざし、1）地域の中で、こつこつと作品を作っていたり、日常の生活の中で行なわれている文化的な営みを掘りおこし、そうした人々を地域でつなげていく、2）そうした地域の人々をつなげる役割を分館利用者が担っていく、3）サークルの活動を発表し、地域にひろげていく、という三つの柱をもとに、利用者交流会が主体となり、実行委員会を結成し、準備、実施にあたった。 午前10時～12時			
準備日程			
月	日	内	容
9.	14	なんでも展実行委員会発足、趣旨の検討	
9.	21	イメージづくり、参加サークル集約	実行委員長等選出
9.	28	アピール表の作成	
10.	5	参加サークル、内容の集約、当日パンク文案決定	
10.	12	PR関係確認、出品作品の確認、準備と当日の時間帯決定	
10.	19	出品作品の確認	
10.	25	作品搬入、展示品セット	
10.	26	だれでもなんでも展当日	
	27		
11.	11	反省会	

実行委員 17人×10回＝170人

子どもフェスティバル

公民館は、市民の自己教育を援助しながら、自治的能力を豊かに育て、民主主義の主人公、主権者としての市民形成に役立つ場です。だとすれば、自治的能力をどう子どもたちの中に育てていくか、という課題は、子どもにとって、非常に重要な課題です。今日、子どもが、地域でばらばらにされ、孤独な生活をしいられている中で、本来、子ども社会が持っていた仲間とかかわりながら、1つのものをつくりあげてく力、子どもの自治的能力を獲得していく過程を通して、地域の教育力の回復をま

すことを目標とした。

昭和60年12月16日～昭和61年5月12日 全18回 63人×18回=1,134人

昭和60年12月16日 第1回子どもフェスティバル準備会

昭和61年 1月13日 第3回フェスティバルの内容検討

27日 内容の検討

2月10日 内容の検討、仲間集めのポスター

2月24日 分野ごとの班わけ

3月 3日 班 会 議

10日 ”

17日 ”

24日 ”

3月31日 ”

4月 6日 リーダー合宿

7日 班での実習

14日 班での実習 ポスター作り

21日 ”

28日 ” カンパニ作り

3日 パスポート、ワッペン作り、実習

11日 前日の準備、リハーサル

12日 当 日

当日参加者 800人

当日の内容

映 画 おかあちゃんごめんね

チョコレート戦争

人形劇 マンガクラブ 東京都立川高等保育学院「3匹のこぶた」

手づくりコーナー、糸まき戦車をつくろう。

カレー屋ピッコロ、おかし屋

アスレチック

おばけ屋敷

「父母の子育てひろば」

子どもの社会性を伸ばす機会が少ない中、親・おとなの意識的な子ども集団の形成がもめられる。そのために、親が育成者として、子ども集団を側面から支えるとともに、日常の発達への教育的配慮へのちからとなっていくよう実施した。尚、ワイワイ子どもひろばと関連し、その保護者及び地区子ども育成活動の方々の参加の機会とした。

期 間 昭和60年7月13日(土)～10月5日(土) 午後7時30分～9時30分

全6回

会 場 白梅会館

参加者 16人×6回＝96人

日 時	講 義	指導者・父母交歓	講 師
7月13日(土)	① ② ③ 子ども教室各コースの 各指導者の 父母・指導者 内容紹介 紹介 の交歓		2教室、指導者 父母・職員
7月24日	この夏の有意義な過ごし方について	指導者・父母交歓	・川辺 進氏(保護司) ・2教室指導者
8月24日	2教室の進行と子育て交歓		2教室指導者
9月14日	・子どもの発達への環境づくり ・集団活動や遊びと発達	指導者・父母の交歓	・酒匂一雄氏(駒沢大・都 社全教育主事) ・2教室指導者
9月15日	親・子はん盆すいさん		
10月 5日	生物としての人間と、 子育てについて	指導者・父母の交歓	・宮岡一雄氏(明治大学) ・2教室指導者

総 括

子どもの発達に係わり、指導者間、父母間で「社会性・絵画・音楽・読書」などの角度から、理解を深める機会となる。また、集団活動の条件をととのえる親の役割を考える契機となった。

「第4回 白梅会館利用者発表会」

白梅会館で活動するグループの成果の発表と交流、地域に活動の広がりとなっていくための熊川における公民館での文化のひろばとして実施にむけた。

実行委員会日程

日	程	内 容	参 加 者
4月 3日	午後7時30分 ～9時30分	展示のひろば、配置・展示方法、役割分担	9団体 10人
4月 5日	同 上	演示のひろば、演示内容、プロ、進行表作成	12団体 12人
4月12日	同 上	” 役割分担、当日設営方法	15団体 15人
4月15日	同 上	全体実行委、全体企画集約と総体分担	16団体 16人
5月 8日	同 上	全体実行委、全体企画確認・PR・当日準備	23団体 30人

利用者発表会当日

5月25日(土) 展示 「手芸・藤細工・生花・ピンクッション・七宝焼・子ども絵画・浮世絵、
手づくりはやし面、グループ活動展(3団体)」
午前10時～午後5時 (入場 155人)

「第5回 白梅利用者発表会」実行委員会

(1) 日頃の公民館活動の成果発表の場とする。(2) 個々のグループが同一目標に向かって活動することにより、交流・親睦を深める機会とする。(3) 公民館活動を地域にひろめ、熊川の文化・学習のひろば(祭典)となる、ことを目標に、61年5月を実施の目処に、実行委員会を組織し、準備をすすめた。

実行委員会日程

日	時	内 容	参 加 者
2月23日(日)	午前10時 ～正午	昨年をふりかえり、今年第5回の目標と計画	23団体 25人
3月 9日(日)	同 上	参加グループ確認、準備日程、当日タイムスケジュール、分担	22団体 23人
3月27日(木)	午後7時30分 ～9時30分	「演示のひろば」プログラム・進行表作成・分担	15団体 20人

お茶席 「久田流のお点前でなごやかなひとときを。」 (来 客 60人)

午後1時～4時

親と子のひろば、「映画と人形劇」 (入場者 70人)

午後1時30分～3時30分

(25日入場者、203人)

5月26日(日) 展示 「手芸・藤細工・生花・ピンクッション・七宝焼・子ども絵画・浮世絵・

手づくりはやし面・グループ活動展(3団体)」

午前10時～4時30分

(入場者 238人)

演 示 「はやし、民謡、詩吟、コーラスのひろば」

正午 ～ 3時30分

(入場者約 300人)

フィナーレのひろば、「その場でたのしめる、ダンス・ゲーム・健康体操・民謡
合唱と一緒に」

午後3時30分～4時30分

(参加者約 120人)

(26日入場者 312人)

参加団体 23団体 全入場者数 515人

白梅利用者研修会

日常公民館を利用し活動する方々が、公民館の教育機関である働きを知り、地域での公民館の役割について明らかにする機会として実施した。

実施日時 昭和61年2月5日(水) 午後7時30分～10時

会 場 白梅会館

参加者 30人

日 時	内 容	備 考
2月5日午後7時30分～10時	現代社会・教育の状況と公民館の役割	小林文人氏(東京学芸大学教授)

総 括

現代社会の状況から、生活・地域を活々と創造するための公民館。とりわけ、出会い知り合うきっかけの在り方が、人と人との係わりを決定づける重要性を再確認し、今後の活動を深めることにむける契機となる。これを機に、第5回白梅利用者発表会への準備活動の開始となる。

当日のプログラム

10月26日(土)

- 展示コーナー(分館利用サークル作品、活動紹介、一般応募者の作品等の展示)
- 映画「野生のエルザ」「チャップリンの犬の生活」

○おしゃべりコーナー

10月27日(日)

○展示コーナー

○映画「野生のエルザ」「チャップリンの犬の生活」

○マジックショー(福生アマチュアマジッククラブ)

○小さな音楽会(子供たち有志)

○民謡踊り(福生民謡会)

○模 擬 店

○喫茶コーナー

一般応募作品 147点 個人参加 71人

参加サークル 10団体 延入場者数 700人

松 林 文 庫

地域の子どもたちにすぐれた児童図書や絵本を提供する場として、地域文庫を開催し、読み聞かせ等を行なった。

期 間 昭和60年4月4日(木)から昭和61年3月27日(木) 全50回
午後3時から5時まで

会 場 松林分館

参加者 15人×50回=750人

市民大学講座「グリーンセミナー」

身近な自然や文化財の成り立ちを知る機会として実施した。

期 間 昭和61年10月30日(水)～12月4日(水) 全7回

会 場 白梅会館

参加者 25人×7回=175人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 30	何故「緑」なのか	生活と緑の関係を多方面から考案	宮岡 一雄氏
11. 4	市内の緑を遠望してみると	草花丘陵から市内の緑を見る	
11. 6	多摩川を歩いてみたら	人間の生活と河川の関係を知る	大和田一紘氏
11. 13	私たちの街の歴史-I	滝山城跡と福生の関係	中田 正光氏

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1 1. 2 0	森林の働きと林業	森林の現状と役割について知る	小机 晃氏
1 1. 2 7	私たちの街の歴史－Ⅱ	熊川の水喰土の歴史を知る	高崎 勇作氏
1 2. 4	私たちの街の将来は？	どのような街を創出できるのか	

総 括

予想以上の多くの方の参加で充実した講座になった。身の回りの自然と歴史の中に、かけがえのない文化財があることも気がついたし、保存、保護することの大切さもわかった。次年度は、もう少しテーマをしぼってやってもよいかと思う。

自然観察会

私たちの生活が「消費する一方」の構造のため、その排出する物と場所が問題となっている今日このごろである。観察会では、生活排水の流れる多摩川を中心に、水生昆虫・植物・野鳥などの分野別に実施した。

期 間 昭和60年5月19日（日）～昭和61年3月30日（日） 全8回

会 場 市内河原

参加者 215人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 1 9	水生昆虫観察会	多摩川の水生昆虫の実態を知る	田中 和明氏
6. 2	植 物 "	初夏の多摩川の植物を観察する	宮岡 一雄氏
9. 2 2	" "	林の植物を観察する	"
2. 2 3	野 鳥 "	冬の多摩川で見られる鳥を知る	栗原 仁氏 岡田 紀夫氏
3. 2	" "	広い水面にいるカモ類を観察する	
3. 9	" "	丘陵の鳥を観察する	
3. 1 6	" "	草はらと水面にいる鳥の違い	宮岡 一雄氏
3. 3 0	植 物 "	早春の多摩川の植物を観察する	

総 括

雨天のために「鳴く虫の観察会」が中止になってしまったが、各回とも参加者が多く充実していた。

うちのおとうさんはすごい

おとうさんの“位置”が家の中で相対的に低下していると言われる昨今、“忙しい”とだけ言って外に出ないお父さんに出るチャンスとして設定した。

期 間 昭和60年6月7日（金）～7月7日（日） 全6回

会 場 白梅会館

参加者 6人×6回＝36人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 7	自転車を直しちゃおう	パンク修理等の力を身につける	伊藤真基雄氏
6. 14	手品であっ!!と言わせるーⅠ	かんたんな手品を覚える	高橋 邦彦氏
6. 21	” ”ーⅡ	”	”
6. 28	刃物を研いでみせる	ほうちょうの研ぎ方を学ぶ	高水 一男氏
7. 5	アウトドアライフに挑戦	登山用具等の使い方の実践	島田 高広氏
7. 7	アウトドアライフ実践	テント設営などの実践	”

総 括

お父さんは多忙で、地域に出てくることなどはむずかしいと思っていたが、参加された方々の話しでは、やれそうで興味を引かれるような講座だったら参加する、とのことだった。要は内容次第なのだと思う。

白梅ファミリーハイキング

秋の一日、身近な奥多摩へ親子そろって出かける機会として設定した。

期 間 昭和60年11月23日（祝日） 全1回

会 場 五日市町「広徳寺」と逆沢・今熊山

参加者 32人

コ ー ス	案 内 者
五日市駅 ― 〓 沢渡橋 ― 逆沢 ― 今熊山 ― 広徳寺 ― 五日市駅 バス	佐久間直冬氏

総 括

天候に恵まれたせいか、大勢の方の参加で楽しかった。しかし、参加者のレベルが一定ではないので、コースの作り方には注意が必要だと思われる。

白梅親子映画会

身近なところで親子そろって見られるような作品を提供するとともに、映像を通して様々な問題を考える機会として実施した。

会 場 白梅会館

上映日	上映作品	上映時間	入場者
4. 13	典子は、今	午後7時30分 1回	110人
6. 16	赤いトラックと8人の子どもたち	午前10時 1回	35人
7. 31	素晴らしい風船旅行	午後7時30分 1回	20人
8. 17	禁じられたあそび	午後1時、7時30分 2回	25人
9. 28	トムソーヤのぼうけん	午後2時 1回	25人
10. 26	野生のエルザ	午前10時 午後2時 2回	50人
11. 23	野性のポリー	午前10時 1回	15人
12. 14	赤い仔馬	午後2時 1回	25人
1. 18	ふるさと	午前10時、午後2時 2回	55人
3. 1	ジャングルブック	午後2時	50人
3. 15	ほのぼの人形劇（人形劇）	午後2時	150人

(7) 高 齢 者

しらうめ、“熟年ひろば”

都市化・核家族化とともに、当市も高齢化が進展しつつある。職業社会的地位を退き、或いは、生活年齢的帰属地位での役割変化の中で、いかに高齢期を健康で、生きがいある生活を築いていくかもめられている。そこで、これまでの生活経験を、社会変化を見つめる中で、自己の生活を確立し、若い世代と一緒に地域生活を育くむことにむけ、以下のように実施した。

期 間 昭和60年11月16日（土）～61年3月1日 全12回

会 場 白梅会館

参 加 20人×12回＝240人

月 日	内 容	講 師
11. 16	自己紹介、ひろば、内容・性格紹介、展開打合せ	話 し 合 い
3 0	生物としての人間と高齢期を生きるために	宮岡一雄氏（明治大学教授）

月 日	内 容	講 師
1 2. 7	私達の健康管理について（知恵の交換）	市健康センター、話し合い
1 4	高齢期の社会参加、若い世代とかわるために	原田正二氏（大正大学教授）
2 1	年 末 懇 親 会	飲食・自由交歓
1. 1 1	私達の人生の歩み I	メンバー個々順に語る。
1 8	禅のはなし、“今を活かし、心を養うために”	服部照親（千手院住職）
2 5	私達の人生の歩み II	メンバー個々、順に語る
2. 1	” III 主に、終戦までの	
1 5	” IV 生活を中心に！	
2 2	身近な生活で（家庭：近隣地域）互いを養うために	萩原元昭氏（群馬大学教授）
3. 1	日本の高齢化社会と、国民的な生活課題	小林文人氏（東京学芸大学教授）

総 括

高齢期の生活を構築するための基礎的な視座及び社会変化の時代にあっても、生活経験からの生きる確かなものを見直す契機となった。以後自主活動により、人生の歩みを語らうことを続け、熊川散歩、白梅分館に集まる異なる世代の人達との交流会実施となっている。

6. 市民会館主催事業

1. 目 的

会館は、市民の文化・芸術の拠点として、また豊かな人間性をはぐくむ場として、会館のもつ機能、設備を内容面で市民に還元してゆくことを目的としている。

その一環として、市民会館主催事業は、市民によりよい鑑賞の機会を提供し、生活の潤い、いい、また、文化、芸術の創造の契機となるよう行なわれる。それは、市民が鑑賞者として、“素晴らしいもの”を愛する心をいつまでも持ち続け、会館が主催者として、市民の求める“素晴らしいもの”を十分に検討し、それに対応するという相互のより高い調和を目的とし、開催する。

2. 目 標

定着化したオーケストラコンサート、ポピュラーコンサート、落語鑑賞会、市民名画劇場に、新たに寄席を加え、幅広いジャンルからの企画により、多くの市民の参加を望んでいる。

また、主催事業の内容の充実とともに、催しを全市民に知ってもらうため、宣伝活動の徹底を心がける。

公 演 種 目	実 施 日	会 場	入 場 料 金	発売人数	出 演 者
落 語 鑑 賞 会	昭和60年 6月22日(土)	市民会館 小ホール	前売券 400円 当日券 450円	321人	三遊亭 生之助 林家 時蔵 古今亭 志ん橋 入船亭 扇 好 古今亭 朝 太
ハイファイセッ トコンサート	昭和60年 12月14日(土)	市民会館 小ホール	指 定 2,500円	751人	ハイファイセット
初笑い福生寄席	昭和61年 1月12日(日)	市民会館 大ホール	指 定 1,000円	962人	柱 米 丸 春日三球・照代 早 野 凡 平 柱 光一・光三 三遊亭 かつお
ふっさスプリ ングコンサート	昭和61年 2月9日(日)	市民会館 大ホール	指 定 3,500円	1,165人	中 村 紘 子 三 石 精 一 読売日本交響楽団

市 民 名 画 劇 場

上 映 作 品	上 映 日	上映回数及び入場者
砂 の 器	5月26日(土)	午後・夜間 2回 272人
ビッグウエンズデー	7月 6日(土)	午後・夜間 2回 188人
ト ッ ツ ィ ー	9月21日(土)	午後・夜間 2回 303人
男はつらいよ・寅次郎忘れな草	11月 2日(土)	午後・夜間 2回 175人
ア ニ ー	11月30日(土)	午後・夜間 2回 86人
ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ アメリカ	1月25日(土)	午後・夜間 2回 301人
第 三 の 男	3月15日(土)	午後・夜間 2回 222人